

うらやす P-Life

ひとひと
女と男が認めあい、共にかがやくまち・うらやす



浦安市 男女共同参画ニュース
女性プラザ 2014年3月

vol.11

特集 市民インタビュー

うらやすの 活躍する女性たち。



仕出し弁当店 経営

フリーランス フォトグラファー



今、なぜ 女性の活躍？

最近、「女性の活躍」ということばを耳にする機会が増えていません。女性の研究者が画期的な成果を上げたことも大きなニュースになりました。女性が活躍することで経済が活性化し、女性が働きやすい職場をつくることで、少子化を止める手立てともいわれ、国の成長戦略の一つにもなっています。あらためて、女性の活躍について考えてみます。

ビジネス誌 記者



専門家に聞く — なつみゆき 渥美由喜さん
女性の活躍で未来が変わる



P-LifeのPとは **Personality** (個性・人格) を尊重する
Positive (積極的) な生活に
Plus となる情報紙という意味です。

うらやすの活躍する女性たち。

仕事を通して活躍するうらやすの女性たちを紹介します。

仕事は大変、でもやっぱり好き！



堀木まり子さん
(50代 堀江在住)



おふくろの味 ながや (仕出し弁当) 経営

ひとりで仕出し弁当屋を営む堀木さん。毎朝3時45分に起床、家事をすませ、自宅近くの店へ向かい、その日配達する弁当の準備に取りかかる。配達、仕入れ、回収、後片付けを終え、15時半過ぎにようやく自分の昼ごはん。仕込みをして帰宅するのは19時頃になる。「からだを動かすのが好きだからね」と真冬の空の下、半袖姿で答えてくれた。

夫の営むすし店の隣で、定食と弁当の店を開店。仕事は順調だったが50代で離婚。店を閉め3人の子もたちと再出発をした。「当時、末の子が高校生。何もかも失って、うつのような状態だった」と振り返る。けれども、お客さんや子ども達が応援してくれた。「お店で働いているときが一番楽しそうだったよと子どもに言われたんです」。借金をして再び店を始めた。思うようにお客さんが増えなかったが、仕出し弁当に絞り日替わりメニューなど工夫を重ねた。3年で借金を返済した。

「人を雇ったら？って、言ってくれる人もいるけど、ひとりだからできることもあるんです」。堀木さんは、好き嫌いやご飯の量など、お客さんの好みにあわせて弁当を作る。手間がかかることだが、自分で決め自分で作るからできることだと言う。

「70歳まで働いてあとはゆっくりしたい。でも、そういう生活はすぐ飽きちゃうかな」と照れ笑い。「また、定食屋をやりたい気持ちもあるんです」。



フリーランス フォトグラファー

卒業後、就職した商社では経理事務を担当、パソコンの前で伝票処理をこなす毎日、人と話すことが好きな杉井さんは、物足りなさを感じていた。そんなとき友人の結婚式のスナップ写真を手に取った。「思わず笑顔になるような、こんな写真が撮りたい」と一念発起。会社員を続けながら、平日の夜にウェディングフォトグラファーの学校に通った。週末は結婚式場のカメラマンとして修業。「ウェディングの現場ではずっと笑っていられて、充実していました」。

その後、結婚し出産、1年間育児に専念した。社会とのつながりが無い毎日に不安を感じる時もあった。そんなとき、「ママだけど自分も大切にしよう」という地域のグループに参加。「仕事・家事・育児の両立などの悩みを共感、夢を応援してくれる仲間と出会い、力をもらいました」。

今は週に3日、子どもが幼稚園に行っている間に集中的に仕事をする。家族写真、お誕生日や七五三、プロフィール写真など、依頼の内容は多岐にわたる。時間をかけて撮影し、しっかりと補正したデータを平均200枚くらい渡す。ブログや口コミで依頼が増え続け、「1日が48時間だったらいいのに」と笑う。

これから、ふたり目の出産や夫の転勤があるかもしれない。「でも、子どもがいるからこそできる働き方をみつけていきます。子どもの手が離れたら写真スタジオをオープンさせたいですね」。



子どもとの生活の中に仕事がある毎日



杉井知紗さん
(30代 明海在住)

自分に合う仕事をずっと続けるということ

週刊ダイヤモンド 記者

経済誌「週刊ダイヤモンド」の記者歴13年。今の担当は建設と不動産。「経済という堅いイメージがあるかもしれませんが、でも経済誌の記者として社会を見ると、お金ではなく感情が動くから経済が動くと感じている。「そんな風に見ると、経済もおもしろいです」。

1週間のうち、3日間は取材で人に会う、2日間で原稿を書き、締切に間に合わせる。多忙な毎日だが、きちんと休みを取ることを心がけ時間を使う。「締切に間に合わないときは、休日でも仕事をしますけど、休むことも大切ですよね。淡々と仕事を語る津本さん。大変なことはないのだろうか。「今こそ、自分なりのペースがつかめましたけど、入社したばかりの頃は、夢の中でも原稿を書いていた。それだけ追いつめられていました」。取材先のほとんどが大手企業、そして、男性管理職。女性には話すことなんか冷たくあしらわれたこともあった。「でも、いい記事が評価につながる世界です」。署名入りの記事、よかったときは手ごたえがある。その反対に誤報は絶対許されないという厳しい仕事でもある。

「仕事のよいところ？それはやっぱり自由に使えるお金を稼げること。ストックするだけでなく、フローさせてこそ貨幣経済です」と経済にたとえて答えてくれた。将来、子育てや介護があったとしても、仕事を辞めるという選択肢はない。「自分に合っている仕事で、いつまでもお金を生み出していきたいですね」。



津本朋子さん
(30代 富士見在住)

女性の活躍 用語事典



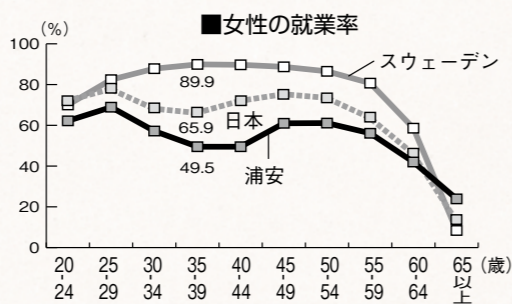
【世界男女格差報告 (ジェンダーギャップ指数)】
世界経済フォーラムが政治経済分野の男女格差を指数化し順位をつけて毎年発表。2013年、日本は136か国中、105位。1位はアイスランド、近隣国では中国が69位、韓国が111位。管理職や議員の女性割合が少ない結果、日本は毎年順位を下げている。

【クオータ制】

一定数の人数を特定の性別などに割りあてる方法。日本では2020年までに指導的立場にある女性を30%にするという目標(2020年)があり、クオータ制の導入の是非が問われている。

【M字カーブ】

現在、欧米諸国では見られない。



【ダイバーシティ Diversity】
多様性と訳される言葉。ダイバーシティ経営、ダイバーシティの推進などと使われる。性別、年齢、ライフスタイル、国籍、障がいの有無などのさまざまな背景を持つ人たちが能力を活かせる機会を作り出すことが重要。

【M字カーブ】

出産育児のため仕事を辞め、子どもに手がからなくなつてから再び働き始めるという女性独特の就業状況を表す言葉。年齢別のグラフにする

女性の活躍で未来が変わる

1 今、なぜ女性の活躍？

女性が活躍できる社会、つまり女性が働きやすい社会は、好循環をもたらす社会だからです。経済面から考えてみましょう。戦後、高度成長期は質のよいものを大量に生産すれば利益を上げることができましたが、その時代は終わり、付加価値つまりアイデアが利益を生み出す時代になりました。そのアイデアは多面性からしか生まれてこないのです。

私が思うダイバーシティ（多様性）の5本柱、女性・高齢者・障がい者・外国人・非正規雇用、このようなさまざまな人の感性は、アイデアを生み出すときに不可欠です。今まで日本は、とりわけ女性の力を活かしきれていませんでした。多様性をもつ企業こそ、多様な消費者に対応できるのです。

女性は次世代を見据えている人が多い。エネルギーや環境など、スパンの長い分野にもっと女性の感性が活かされるべきです。



2 女性が活躍すると、どうなる？

日本では家事、育児や介護は、まだまだ女性が担っていますので、時間的な制約の中で働く人が多くいます。長時間労働ができない人の職場にもたらす影響は大きく、勤務時間内で仕事を終える、看護などの急な休みに対応するなど、誰もが働きやすい環境づくりにつながります。

そして、そのことはひとりの人に家庭人、地域人、職業人という3つの多面性をもたらすというメリットがあります。仕事の中には一生懸命やっても報われないものもあるでしょう。職業人の顔しか持っていなかったらとてもつらいことですが、職場以外に居場所があれば心の健康は保たれます。

内閣府少子化危機突破タスク
フォース政策推進チームリーダー
厚生労働省政策評価に関する有
識者会議委員
(東レ経営研究所 研究部長)



企業のダイバーシティやワーク・ライフ・バランスの研究、導入などのコンサルタントをしながら、国の委員、講演の講師なども務める。プライベートでは2児の父親。育児と父親の介護に関わり、ワーク・ライフ・バランスを自ら実践している。

また、100%職業人という人だけの集まりは、組織の利益だけを求めてしまい、不祥事が起きやすい傾向があります。地域人、家庭人の顔の割合が大きいほど、不正に対して抑止力が働きます。

女性の視点が活かされることで、会社の業績アップにもつながります。



3 どうすれば、女性が活躍できる？

「女性の活躍」には3つの壁があります。社会の壁、職場の壁、家庭の壁。社会の壁は保育園に入れないなどの問題。職場の壁は、長時間労働や育児休業などの制度を使えない職場風土など。この部分の改善が進めば、女性の活躍は量だけでなく、質も上がるでしょう。

家庭の壁も高いです。「男は仕事、女は家庭」といった性別で役割を決める意識を見直してみることで、それは女性にも言えることです。家庭内で「収入を得る人がひとり」という状態は、とてもリスクが大きいです。家事や育児、介護、そして仕事を共にしていくことは、家庭のリスクマネジメントになるのです。

家計の維持者がひとりなら、たとえば「転職したい」などの決断はしづらいもの。ふたり分の収入は、人生の幅を広げることができるかもしれません。



個室で相談が受けられます



相談室



外観

文化会館2階にあります

女性プラザ information

女性プラザでは、講座の開催や図書の貸出し等を通じて、情報提供を行い、市民の交流・ネットワークづくりを支援しています。

利用案内

相談

女性が抱えるさまざまな問題を自ら解決するための支援をしています。※秘密は守られます。

■ 女性のための相談（予約制）

毎週 月・火・木 10:00～16:00 ※このうち3回は 14:30～20:00

第2水・第4金 14:30～20:00

■ 女性のための法律相談（予約制・月2回）

開所時間

月～金 8:30～17:00（土・日・祝・年末年始休み）